



おひざのうえで

(副園長の子育ておうえん通信)(2022年1月)



せんりひじり幼稚園
副園長 安達かえで

「あけましておめでとうございます」

お天気のいい日が続いたお正月でしたが、皆様どのように過ごされましたか？

寅年の幕開けですが、勢い余って前のめりになりすぎない程度に、前向きな良い一年にしたいですね。オミクロン株が猛威を振るい始め、第6波が来ていると言われていますが、3学期は、学年最後の大切な時期。このような状況下でも、思いっきり充実した日々が過ごせますように、感染対策をしながら、工夫して過ごしていきたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

我が家の年末年始は、今年も延べ10日間、娘家族と息子家族が帰省し、賑やかでした。去年は娘のお腹の中にいた二人目の子ども、今年は走り回るお姉ちゃんたちの間をハイハイですり抜け、お目当てのものを見つけると散らかったおもちゃを乗り越えてズリズリと進んでいきます。

ばあばは年末から、迎え入れる準備のために、布団を出してカバーをセットし、おもちゃコーナーのために模様替えをし、山のような食材の買い出し、お節料理を作り、チャイルドチェアを2つ、ベビーラックを1つ出し、総勢10人の三度三度の食事の準備、孫のお世話やお相手と、座る暇もなく、時々めまいを感じながら、主人に何かと手伝ってもらいお役を果たすことができました。年々、体力の低下を感じますが、それもこれも、子や孫に会いたい一心です。「帰りたい家」「集まりたい家」でありたいという思いからですが、疲れしました。孫は「来てよし、帰ってよし」とはよく言ったものですね。

楽しめたのは、2歳の孫との会話です。おままごとのかごを差し出して「ばあばはパンを買いに来て」と自分の遊びのイメージを広げて遊びの中でイニシアティブをとります。「サンタさんが来るからここにくつしたを置いてるの」と、経験したことを遊びの中に自然に取り込みます。「お星さま見てから寝るから」と、生活の中で次の見通しをもつことができるようになってきました。会話のやり取りが楽しくて、言葉遊びができるようになってきました。言葉の文化の中に、自分を位置付けていく過程にいる面白さを感じました。

思い通りにならないと急に大声で怒りだしたり、崩れて立ち直るのに時間がかかったりもしますが、そのたびに、ママやパパたちがかける言葉によって、気持ちを立て直すタイミングをつかんでいました。大人の言葉かけの一つを「足場かけ」と言うことがあります。次への談話のための足場(きっかけ)を作るために、違った言い回しをしたりします。それがきっかけで、会話が続いたり広がったり、新たな言葉を憶えたりします。このように周りの大人は、子どもたちが気持ちよく前向きに過ごせるようにあらゆる言葉をかけていき、そうして周りからかけられる言葉がその子の心を作っていきます。言葉にはその人の価値観が見え隠れし、どう育ててほしいのか、どんな人になってほしいのかの思いが言葉に乗せられて相手に伝わっていきます。言葉の持つ力は人が思う以上に強く、豊かな栄養になったり、深く傷つけてしまうような武器になることもあります。簡単に口から出てしまう言葉だけに、言葉を投げかける相手はどう感じるのかを一瞬考えてから出していきたいものですし、ましてや子どものこれからの人生を豊かなものにするためには、その時その時でかける言葉の正解域を探りながら、関わっていきたいと思いました。自戒の念を込めて・・・。

